

江北の四季

令和3年
1月1日
第40号

新年

明けまして

おめでとうございます

本年もどうぞよろしく

お願いします

♪年の始めの 例(ためし)とて

終りなき世の めでたさを

松竹たてて 門(かど)ごとに

祝(いお)う今日こそ 楽しけれ♪

※例 ためし 昔からのならわし 恒例行事
いちげついちじつ

『一月一日』

上 眞 行作曲 千家 尊 富作詞



松、千両、椿

生花(三種生け)

新しき年のはじめにおもふこと

ひとつ心につとめて行かな

斎藤茂吉

新年に当たり思うことは多いですが、せめて生け花だけでも、「初心忘るべからず」です。

当流に、万能一得の一句あり

初心忘る可からず

この句 三箇条の口伝あり

是非の初心忘る可からず

時々の初心忘る可からず

老後の初心忘る可からず

『花鏡』 世阿弥

何となく今年はいい事あるごとし

元日の朝晴れて風なし

石川啄木

コロナ禍で閉塞感の強い昨今ですが、せめて今年はいいことがあってほしい。

門松は冥土の旅の一里塚

めでたくもありめでたくもなし

『いつきゆうそうじゆん』 休宗 純

人生は冥土の旅だからこそ、「袖ふれ合うも他生の縁」として、仲良く楽しく、生きが

いのある旅にしたい。

最後はめでたい歌で締めくくりましょう。

新しき年の初めの初春の

今日降る雪のいや重け吉事

※いや ますます さらに いやいよ

吉事 Ⅱ よきこと

新しい年の初め、初春の今日降る雪のように、

良い事もたくさん積もれ。

大伴家持

『万葉集』を編纂した大伴家持がその最後(4516番目)を締めくくった歌で、大伴家持が最後に詠んだ歌ともいわれています。今年「今日降る雪のいや重け吉事」であってほしい。

☆正月は縁起のよい花を生けます。先ずは、歳寒三友あるいは厳寒三友といわれる松竹梅。その中で松は、神が宿る木(神木)であり、風雪に耐え千年の翠を保つため、不老長寿や家運隆盛を意味します。よって日頃は、某禅宗のお坊さんに墨書していただいた「松樹千年翠(しようじゆせんねんのみどり)」の書を掛けていますが、正月だけは本物の松です。また、欲張って金運上昇も祈願して、千両を生けることにもなります。



センリョウ(千両)の一種生



オモト(万年青)の一種生

○ 小寒 しょうかん

二十四節気の小寒は一月五日から大寒(一月二十日)の前日まで。小寒は寒の始まりなので一月五日が「寒の入り」、小寒から大寒を経て立春(二月三日)の前日、二月二日の節分までが「寒のうち」です。なお、例年は二月三日が節分ですが、今年(明治三十年)以来一二年ぶりに二月二日が節分になります。豆まきの日を間違えそです。

「小寒の氷、大寒に解く」ということばもあり、年によっては小寒の方が大寒より寒さが厳しいこともあるようです。今年(コロナ禍)のためうっかり風邪を引くこともできません。気をつけたいものです。

☆庭の数カ所に万年青の株があります。これも不老長寿、子孫繁栄の縁起物です。あちこちからいい葉を選んで生けてみました。立葉・露受葉とそのあしらい葉は若葉、流し葉・前葉とそのあしらい葉は古葉になるように。流し葉は昨年の立葉が実に押し倒されたものなので、立葉より長くならないようにします。



セリ(芹)

○第六十七候、初候、芹乃菜(せりすなわちさかう)

セリの名は競り合って生えるから。春の七草の一種です。春の七草は、セリ、ナズナ(ペン草)、ゴギョウ(ハハコグサ)、ハコベラ(ハコベ)、ホトケノザ(タバコ)、スズナ(カブ)、スズシロ(大根)。

覚え方は、五・七・五・七・七とリズムよく覚えることになっていきますね。「せりなすな ござようはこべら ほとけのぎ すずな はずしろ はるのななくさ」。「セナはゴッホとスズニツ」なんていう語呂合わせもあるそうです。もう一つです。

一月七日(人日の節句)の七草粥で、一年の無病息災を願いますが、旧暦とは一ヶ月ほど早くなっているので、若菜摘みは難しい。

君がため春の野にいでて若菜摘む

わが衣手に 雪は降りつつ

小倉百人一首 光孝天皇



水仙の一種生

庭の水仙を竹の寸胴に生けてみましたが、丈が短く合わないで写真の花器に移し替えました。

